

NHK プロフェッショナル

ご関係者様

10月27日に放送された「ぶれない志、革命の歯科医療」を見て

日吉歯科医院に通う患者さんの歯に対する意識の高さ、自分の口の中に対する知識の多さ、そしてなによりも虫歯で悩むことなく健康で幸せな人生を歩んでいる姿をみて、これこそが私たち歯科従事者が患者さん提供していくことだと改めて実感しました。

一時の安心を選ぶか？生涯健康な歯でいられる安心を選ぶか？本当に患者さんが求めているのはどちらなのか？真の患者利益を考えぶれずに実践されてきた結果が、あの患者さん達の変化なのだと感じました。

私は歯科衛生士をしています。日吉歯科医院で提供していることを患者さんに理解してもらい、実践していくことの大変さも実感しています。

番組の中でも岡先生が試行錯誤しながらも患者さんに唾液検査を提案し、受け入れもらえたかな…と思った矢先に突然のキャンセルが入りショックを受けている姿をみて、どんなに素晴らしい知識や技術があったとしても、それを患者さんに理解してもらうためには、患者さんに自身に自分の口の中を知ってもらい、カリオロジー・ペリオドントロジーを理解してもらうことが必要なのだと感じました。

番組の中で熊谷先生もおっしゃっていましたが唾液検査は検査することが目的ではなく、患者さんにわかりやすくカリオロジーを知ってもらうツールとして欠かせないものだという言葉が心に響きました。

歯科衛生士の私でさえ本当にカリオロジーを理解するまで時間がかかりました。それを患者さんに理解してもらうためには、わかりやすいツールを使いしっかり時間をかけ自分自身でなぜメンテナンスやフロスが必要なのかを説明できるぐらい育成していくことが重要であり、だからこそ日吉歯科では「口の中がきれいにできるようになるまで治療はしない」という診療スタイルを貫いているのだと思いました。

番組の冒頭に出てきた「どんなに酔っぱらっていてもフロスやらないと気持ち悪い」と言っていた男性や「フロス大好き！毎日やってもらってる」と言っていたお子さんたちのように、育成されれば患者さんはきちんとしたセルフケアが習慣化されるのだと実感しました。

今の歯科の現状は、患者さんの要望に応えるためにまずは治療をする。そしてセルフケア

の方法のみを提案し、チェックアップに来るよう伝える。患者さんは一時的に痛みが取れ問題が解決したことで歯科医院に感謝します。

しかし、その結果 80 歳で 11 本という現状があり、成人の 8 割が歯周病に罹患し歯で悩んでいる方がたくさんいる。

自分の歯が何本あるのか？治療した歯が何本か？プラークが付きやすい場所はどこか？これに答えられるかたはほとんどいないと思います。

日吉歯科医院では本当に患者さんにとって必要なことはなにか？を常に考え、目先の要望に応えるのではなく、患者さん自身を育成しながら生涯健康で安心できる口腔内が手に入る方法を身に付けてもらうことで、患者さんの人生そのものを変えていく提案をしているのだと感じました。

頭で理解しているのと、それを確実に実践していくのとでは大きな差があります。これからの日本に健康な歯をもつ人々を増やしていくためには、ぶれない意志と真の患者利益とは何かを常に考え、患者さんと歯科医院との関係性を作り上げていくことが必要だと思います。

私自身改めて、歯科医院から患者さんに提供すべきことは何か？を振り返り、これからも健康な口腔内の人々を増やしていくために、学び続けようと決意しました。

NHK プロフェッショナルのご関係者様、素晴らしい番組を作ってください、ありがとうございます。

2014 年 10 月 27 日放送「プロフェッショナル 仕事の流儀」を見て

「85 歳歯の数 23 本」初めから驚きの数字で、目が離せなくなりました。そして、「子ども 8 割 20 歳でむし歯 0」、そんなことがあり得るのかと思いましたが、この番組を見て、簡単なことではないが、実現できる可能性があるのだと思いました。

番組の中で、「痛いところを治してくれればそれでいい」というフレーズが出てきました。世間での正直な認識だと感じました。

私は、たまたま小学生の頃に反対咬合を治すために矯正をしていたため、歯医者へ通院することには抵抗なく、ここ 15 年くらいは定期的にメンテナンスにも通っています。

しかし、家族や友人など、定期的に通っている人は、私の周りにはごくわずか。そして、私も、たぶん小学生の頃の経験がなければ、その中の 1 人に簡単に入っていたと思います。

最近メンテナンス通院に対し、どこか物足りなさを感じていたのですが、その原因がわかりました。全く自分の口腔内の状況を知らされていないことに気づきました。同時に、定期的に通っているにもかかわらず、このままただただ定期的に取り除いてもらうだけでよいものなのか不安になりました。

熊谷先生の患者さんへの対応、考え方を知り、歯医者さんがこんなに自分の口腔内を説明してくれ、将来について考えてくれるものだとは知りませんでしたし、想像もついていませんでした。メンテナンスに通院しようと思わせる説明、また自宅でも意識していただけるよう、写真を使っの説明の工夫も、印象的でした。

口腔内の環境を整えてからでないと治療を開始しない医院というのは、今までの私の中の歯科医院の印象を 180 度変え、そしてそれでも通いたいと思える医院で実際行ってみたい気持ちにかりたてられました。関東在住なので、現実的に難しいのが残念でなりません。

ひとまずは、近くで自分に合う歯科医院を探そうと思います。

自分自身を見直し、考えるきっかけを作って下さり、ありがとうございました。

プロフェッショナル 仕事の流儀制作スタッフの皆様へ

10月27日(月)PM10:00から放送されました「プロフェッショナル 仕事の流儀」を視聴させていただきました。今回は、歯科予防の実践と普及活動に奮闘されている山形県酒田市の歯科医師である熊谷先生にフォーカスした内容でした。

私も歯科関連の会社に勤めている者ですが、熊谷先生の予防へ取り組みや思いに強く感銘を受けました。歯科予防を普及するということは歯を治療する患者以外に健康な方も対象となり、歯科関連市場においての拡大・活性化に繋がる素晴らしい取り組みだと思います。

また、80歳過ぎても20本以上が自分の歯で、するめやリンゴにかじりついている映像が衝撃的でした。歯が残っているため、表情が元気で若々しく見えたところです。自分の歯を維持することは若さを保つことにもつながると実感しました。

熊谷先生が日本に歯科予防を普及させるために、若い歯科医師に歯科予防の教育を行っている場面で、取り上げられました福岡のあおばデンタル岡先生の取り組みも紹介されておりましたが、岡先生の今後の奮闘を引き続きレポートいただき、また次の機会に放送いただきたいと思います。

これからの歯科医療の進むべき方向が示された素晴らしい放送だったと思います。

熊谷先生以外にも実際に予防歯科に取り組み、成功されている歯科医院や歯科医師の紹介があれば、治療から予防へシフトチェンジしようとする歯科医院が増えるのではと思いました。

私は千葉に在住しておりますが、患者への丁寧な説明、予防への取り組み、患者視点でのコミュニケーションといった3点を重視している歯科医院はあまり見当たりません。

このような放送を通じて、熊谷先生が思い描く、「痛くなる前に通える歯科医院、患者の人生を考えた予防と治療」を実現してくれる歯科医院が身近な場所にどんどん増えてほしいと思いました。

「プロフェッショナル 仕事の流儀」では、いつもチャレンジする人がどのような考えと思いで実践し日々、努力しているのかを見せてくれます。また、自分はなんのために今の仕事をしているのか、どのようなことに喜びややりがいを感じるのかを考えるいい機会になっています。

毎回密着取材など大変だとおもいますが、これからも素晴らしい放送を期待しておりますので、末永く放送いただけますようよろしくお願いいたします。

千葉県在住 会社員

NHK プロフェッショナル 仕事の流儀 プロデューサー様

10月27日放送の「ぶれない志、革命の歯科医療」を視聴して

私は30代女性・既婚（子あり）・会社員の者です。

毎週、録画して番組を視聴しております。

NHK では、質の高い素晴らしいドキュメンタリー番組が多く、「プロフェッショナル 仕事の流儀」は我が家では非常に見応えのある番組の一つです。もう一度見たくなる放送のものは保存して、何度でも見ています。様々な分野で活躍するこれは！という人物を取り上げていただき、その人の仕事＝人生（考え・行動）を垣間見て、私なりに感銘を受け、自分の生き方＝取捨選択を考え直すきっかけにしています。

10月27日放送の「ぶれない志、革命の歯科医療」も、また見たくなる放送になりました。毎日なんとなく行っている歯磨き・フロスや歯科医院でのメンテナンスでしたが、歯科医院の指導の元でやってきたことは、熊谷先生の考えに沿ったものだとわかり、自信を持てるようになりました。

新しい概念を世の中へ広く浸透させるという難しい壁を乗り越えるべく、真摯に歯科従事者に向き合う姿を多くの人が見て、これまでとは違う概念（むし歯の治療、むし歯を防ぐ毎日の取り組み）が存在している事実や、その概念を元に行動している歯科医院があるんだ、ということがわかったのではないかと思います。

番組で取り上げる人物にもよりますが、番組は時に視聴者にインパクトを与え、何かを考えたり行動するきっかけを与えていると思います。

これからもこれは！という人物を取り上げていただき、多くの人たちに紹介して行って下さい。プロフェッショナルは時々、放送を中止してしばらく経ってから放送を再開していますが、長く続けてほしい番組だと心より思っています。

『プロフェッショナル』を視聴した感想

以前歯科医院で勤務しており、日吉歯科様での研修をスタッフ 50 人程で受講させていただいた経験があります。医院の規模にも驚きましたが、熊谷先生の予防に対する想いや熱心な教育方法に驚愕したのを覚えています。

研修に伺ったのは 5 年程前になりますが、今回番組を視聴し、改めて熊谷先生の偉大さとブレない信念を感じることができました。

私は歯科衛生士ではありませんが、歯科医院勤務中に学び、予防に対しての知識は持っていたつもりです。患者さんからは、歯科医院に勤めているから虫歯がなくケアが完璧なんだろう、と声をかけられることもありました。

しかし実際は、将来を考えたらうえで毎日歯ブラシやフロスをしているかということ、そこまでの意識の高さではありませんでした。

研修を受講してからは、スタッフの意識もかわり、歯ブラシやフロス（自分自身のケア）の時間が長くなりました。

しかし患者さんへのアプローチに悩むことも増え、医院内で話し合いや知識の共有の時間を設ける機会も多くなりましたが、結果的に、日吉歯科様のような予防システムの導入はうまくいきませんでした。

知識があることと知識を生かし実行すること、そしてそれを他人に実行してもらうことは、まったくの別物であり、一概に『予防を広める』と言っても、容易なことではないのだと医院全体で落胆したのを覚えています。

何十年分のカルテやレントゲンなどの資料を保管しておくことも、通常の歯科医院では容易ではないはずです。

患者さんの将来を自分が背負う気持ちがある故、根管治療が必要になってしまった患者さんに対して真剣に反省し、結果と向き合う。

信頼関係がなければ、医師と患者の関係でそこまでの行動はできないでしょう。

『ブレない』

言葉では簡単ですが、知識のない患者様に、予防がどれほど重要なことか認識させ実行させるための教育や工夫は、計り知れないと思います。

歯は削ってしまったら戻せないものだからこそ、あの時にこうしておけば、こうしてなければ・・・と後悔する患者さんを増やさないため、熊谷先生のような歯科医師が増えてくれることを願います。

自分自身もそうですが、家族や大切に思うひとには、改めて予防の大切さを伝えていきたいと思いました。

(30代女性)

歯医者さんは痛い歯を直してくれる人。だけと思ってましたが、熊谷先生のお話を聞いて、患者さんが自分の口腔内の状態を知るところから治療が始まるところに驚きました。

短期的に歯の治療だけを見るのではなく、その人の生涯に関わる長期的な視野で治療しつづける事が大事と気付かされました。

ありがとうございました。

プロフェッショナル 仕事の流儀 ～ぶれない志、革命の歯科医療 を見て

番組を拝見させて頂きました。
埼玉県北本市在住の会社員です。

まず、冒頭で熊谷先生が仕事の流儀を「患者の人生のため」とおっしゃっていたことにとても感銘を受けました。

「患者の歯」を見るのではなく「患者の人生」を見る。そのために、患者とのコミュニケーションを大事にして、虫歯にならない口腔状態を保つため、いろいろなツールを使って知識を患者と共有していく。

この価値観を患者に伝えるには、患者との信頼関係が前提になるため、とても時間がかかりますが、その先にある「患者の笑顔」を見るために、ブレずに突き進む先生の意志の強さがひしひしと伝わってきました。

セミナーを受けて熊谷先生の意志を理解できても、理想どおりにできないジレンマがあり、その壁を越えられずに断念してしまう医院がとて多いという現実。理想と現実の狭間で苦悩する岡先生の姿を見て、痛々しいほど気持ちが分かりました。

日本の歯科医療は、北欧のそれと比べてとても遅れています。しかし、日本でも熊谷先生の意志が受け継いだ若手の医師たちが、これからの日本の歯科医療を変えていってくれるに違いないという希望のようなものも感じられました。

この現状を国としても問題意識を持ち、増税分の予算で社会保険制度の見直しを行い、患者がメンテナンスを受けやすい環境を作れば、日本の歯科医療は飛躍的に変革し、国民の歯が元気になることで日本全体が元気になり、景気回復の起爆剤にも成りうるのではと感じました。

今後も、番組を楽しみにチェックしたいと思います。

NHK プロフェッショナル 仕事の流儀

プロデューサー様

はじめまして。

この度は、10/27 に放送された「プロフェッショナル 仕事の流儀」歯科医 熊谷崇先生のぶれない歯科医療の放送を見て、大変感銘を受けましたので、感想をお送りさせていただくことにしました。

特に驚いたことは、熊谷先生が勤められている山形県酒田市の高齢者の残存歯数の多さです。高齢者の平均の残存数が 20 本以上で、多くの方が自分の歯で物が食べられることの喜びに嬉しさを感じ、たくさんの方の笑顔が映し出されていたことが印象深く心に残っております。私も生涯、あんな笑顔で好きなものを食べ続けることができれば、そんな嬉しいことはないと感じました。そのために熊谷先生が掲げられていた「逃げない、ぶれない」治療する前に必ず、患者の口腔状態をしっかりと見て、患者にあったベストな方法を選ぶこと、そこで患者に歯を守ることの大切さを伝え、患者自身に自分の口腔状態を知ってもらい、自ら考えてもらうこと。たまたま私の通う歯科医院は熊谷先生のセミナーを受けられており、予防を第一に掲げられている医院さんでしたので、虫歯治療を行う前に口腔内の清掃をしてから、治療を行っていただきました。

まさに熊谷先生の方針通り、まず私の口腔状態を知り、私にあった治療スケジュールを立てていただきました。もちろん、なぜ治療の前に清掃が必要なのか説明も十分にされましたし、その説明はなんと先生からではなく、歯科衛生士さんから説明であったことにも驚きでした。先生だけではなく、スタッフ全員の気持ちが同じ方向を向いており、取り組みが、ぶれていない証拠でもあるのかなと非常に強く感じました。

私もそうであったように、歯に対して全く意識がありませんでした。運よく近くにあった医院さんが熊谷先生と同じ気持ちで取り組まれていたため、歯に対する意識がガラリと変わりましたが、まだまだ全国的に歯に対する意識が低いのではないかと思います。

是非とも、なぜ予防が必要なのかもっと深掘した内容を第 2 弾でも構いませんので、あげただければ国民の意識も、悪くなったら治すではなく、健康を維持し続けるために通うという意識に変化して行くのではないかと感じました。

今後の NHK さんの取り組みに、これからも応援させていただきます。

埼玉県：会社員（33 歳）

NHK プロフェッショナルを見ての感想

■高齢者の方々の生き生きとした表情

歯の大切さについては重々わかっていたつもりでしたが、実際に高齢者の方々の生き生きとした表情を見て、改めて歯を残したいと思いました。番組を見た一般の方々も歯を残すということがどういうことなのか、番組に出ていた人たちの笑顔を見ることで実感できたのではないかと思います。

■一緒に考えてくれる歯医者さん

番組の中で5歳のころから30年間もメンテナンスに通っているというむし歯のない女性の方がいらっしゃいました。むし歯がないことも驚きでしたが、熊谷先生とまるで親戚のおじさんと話しているかのようなリラックスした様子も新鮮でした。それは日吉歯科が単なる治療の場ではなく、患者さんの歯を守る！というスタンスで患者さんと接しているからなんだろうな！と感じました。こんな歯医者さんに私も通いたい！と思いました。

■ライセンスを持つ者としての矜持

熊谷先生が何度かおっしゃっていた「ライセンスを持つ者として」できることをやっていくという言葉が印象的でした。かっこいい！と思いました。

■予防を根付かせる

日吉歯科では治療の前に口腔内写真の撮影、すべての歯のレントゲン撮影、唾液検査、クリーニングを何回かに分けて行い、そのたびに患者さんに口の中の様子を説明していました。そうすることで患者さんが自分の口の中に関心を持ち、きれいにしよう、歯を守ろうという意識を持つことができるのだと思いました。

口腔内がきれいになってからでなければ、治療してもまたすぐにむし歯になってしまうからだという言葉に説得力がありました。

一般的な歯医者さんにとっては、患者さんとは通院している間の付き合いという感じがしますが、日吉歯科とは一生の付き合いを感じさせる対応だと思いました。

■歯医者さんの苦悩

熊谷先生のセミナーに参加した方が福岡で開業し、日吉歯科のやり方で患者さんと向き合っている姿が紹介されていました。が、なかなかうまくいかず、どうすればいいのかわからなくなっているような様子が伝わってきました。唾液検査は本当に必要なのか？と歯科医の方自身が迷っている様子が見えました。熊谷先生とのやり取りで最後には今後も予防に取り組んでいくように見えたのですが、今後、どうなっていくのか、半年後のその歯科医院の様子が知りたいと思いました。

自分の歯を守るために必要な唾液検査やメンテナンスなのに、どうして特殊なもののような扱いになってしまうのか？と疑問に思いました。歯を守るために必要な処置であるならば、どこかの歯医者でもあたりまえのようにできるものであって欲しいと思いました。

NHK「プロフェッショナル」ご担当者様へ

「ぶれない志、革命の歯科医療」をみて

10月28日に放映された「プロフェッショナル 仕事の流儀」を家族で視聴しました。常識にとらわれず、一人の歯科医師としての責任・またその理念に基づいてブレることなく信じた道を突き進むその姿に、“道を拓く”とはまさしくこのようなことをいうのだろうと感銘しました。

横浜から山形にうつられて、酒田の地で歯科医師の使命・責任として地域の人々の健康を守る姿。時間はかかっても、まずは患者の意識を高めてから一緒に予防に取り組んでいこうとする姿。むし歯にさせてしまったことに、本当に悔いる姿。そのどの場面をとっても、私自身が歯科医院に行くときにも、子どもを連れていくときにも見たことがない歯科医師の姿でした。

酒田の地元の方々のお口の状態、高齢の方も子供の方も、私のまわりでは考えられないようなお口の状態でした。何よりも、みなさんの元気そうで明るい表情が印象的でした。日本中の歯科医師が熊谷先生のような哲学をもってその責務を果たそうとしてくれるならば、きっと日本中が元気で明るくなるのかも知れません。(医療費の問題、介護の問題、いろいろな暗いニュースが多すぎです。)

きっとそのような元気で明るい日本にするために、次世代の若い歯科医師の教育にも取り組んでいらっしゃるのだと感じました。そのように考えますと、熊谷先生は高い志を持つ一方で、それが自身だけでは到達出来ない高みであるとしっかりご理解されており、それだからこそ多くの情報(過去の診療のデータや海外の最新の知見)を集め、患者ならびに次世代の若い歯科医師への教育にも熱心に取り組み、理念を同じくする仲間を多くして、「予防」というものを実践・普及されようとしているのだと思います。

“歯”だけでなく、患者の“人生”にも責任を持ち、またそれに向き合う覚悟を持った歯科医師。このような歯科医師がいることを知れてよかったです。

私が通っている歯科医院も決して悪いわけではありませんが、私の人生に責任を持ってくれているかは不明です。

今度通院した時に、まずは「プロフェッショナル」を見たかどうか聞いてみたいと思います。

「ぶれない志、革命の歯科医療」を拝見しました。
熊谷先生のブレない生き方に感銘を受けました。
ここに至るまで決して楽な道ではなかったのに、あえてそれを選んで貫いた先生の姿勢は本当にすごいです。
恐らく大多数の人は歯医者さんを「行きたくない先ベスト 10」にあげると思います。
歯科医院といえば思い浮かぶのが嫌な音、痛み、何をされるのかわからない恐怖感。だから「できるだけ我慢して、我慢できなくなったら治療して、痛くなくなったらもう行かない」となってしまうのでしょうか。以前の私のように。
そして問題はほとんどの医師や患者が「今」しか見ていないということ。
だから医療費が増え続けるのではないのでしょうか。長寿国の日本は先が長いのですから、どこの国よりも長い目で「健康」を見ていかなくてはならないということをお忘れてはいけません。

手間暇はかかりますが先生や衛生士さんたちは「虫歯や歯周病になるとどうなるのか」「なんで虫歯や歯周病になるか」「どうしたら防げるのか」をきちんとしっかり説明して私たち患者を納得させて欲しい。そうすればきっと歯科医院は行きたくない場所ではなくなります。早くいきたい場所が変わります。

熊谷先生のような歯科医師がいることをもっと早く知っていればよかったです。こんな先生が周りにいてくださればきっと私も今のようにはならなかったのに、と悔しさまで感じました。
そして熊谷先生のところで勉強されている若い先生たちにエールを送ります。
多数の患者の要求「今痛いだけを何とかして！」に流されてしまわない芯のしっかりとした本当の歯医者さんになってください。

これから私は「本当に患者（私）の将来を考えてくれる」先生を早く見つけなくてはなりません。どうやって見つけるか頭の痛いことですが自分のために頑張ります。
最後になりましたが、制作スタッフの皆さま、これからもこの様ないい番組を沢山作ってください。楽しみにしています。
ありがとうございました。

「プロフェッショナル」番組プロデューサー 様

メンテナンスに通う患者のむし歯を見つけた時の落胆、酒田で開業した際の苦勞、若い先生方への指導など、どこも興味深く見させてもらいました。

一番印象に残っているのが、35年分のカルテを全部保管しているところです。

一般的な保管義務は、確か5年と聞いたことがあります。

熊谷先生が、全ての患者様の人生を預かっていると感じました。凄いです。

膨大なカルテ量は、熊谷先生の使命感と責任感の表れです。

私の口腔内には、治療をした歯が複数あります。

自宅や勤め先の近所の歯科医院でその都度治療を受けましたので、かなりの軒数でどれがどの歯科医院で治療したかわかりません。治療した歯をさらに治療するということもありました。私の歯の治療の歴史は、たどることは出来ません。

熊谷先生のような先生にずっと診てもらえていたら、私の口腔内は劇的に変わっていたのではないのでしょうか。

歯科医院へは痛くなるか、むし歯を見つけた時に行けば良いと、まだまだ多くの人が誤解しているのが現実です。メンテナンスの重要性は一部の人にしか伝わっていません。

どうして、人間ドックや生活習慣病健診で歯科検診がないのでしょうか。

社会人になった後は、自分から歯科医院に足を運ばないと自分の口腔内の状態を確認する機会は無いです。おかしいですね。

私の義母も実父も歯が1本もありません。残念な状態です。

私の現在通っている歯科医院の先生は、熊谷先生の教えを受けた先生です。

先日のメンテナンスの際にNHKプロフェッショナルの放送の告知がしてありました。

今は、この歯科医院様に一生通い、自分の歯で食べる、健康の先の幸せを勝ち取りたいと思っています。

この番組を見たことで、ますます自分で出来るケアの手を抜かず頑張ろうとやる気が出てきました。

このような番組を多く企画していただいて、歯を守ることの意義を皆さんに伝えていただきたいと思います。宜しくお願い致します。

10月27日放送のプロフェッショナルをととても興味深く拝見しました。

熊谷先生の強い信念、予防歯科を続けていくことの大変さを改めて感じられた番組だったので、私が感じたことをお伝えしたいと思います。

熊谷先生の口腔内をきれいし、患者に自身の口腔環境を理解させる、それまで治療をしないという治療方針、それを理解されなくてもあきらめないという姿勢で、目先のことではなく本当にその人の為になると思うことを実践している姿に、今までのご苦勞を思い勇気づけられました。

番組内で予防歯科を実践しようとする先生が紹介されていましたが、受診を途中でやめてしまった患者さんを見て、患者側の意識が低いことにとても驚きました。気になるところが治ったからもう大丈夫という考え方の人が多いのだなと思いました。

私は今年の5月から治療以外で毎月1回歯医者に通うようになり、歯医者に対し誤った知識があったことに気づきました。それは、歯医者にはむし歯だとすぐに判断ができると思っていたことです。実際はむし歯と判定しにくい歯があること、治療しない方がいい歯があることを知りました。詳しい説明がなくても歯科医に言われるがままに治療を受けていたのだと思います。

今では口腔内の状況を見せてもらい、納得してから治療をしてもらっています。また、自分の口腔環境を知れば知るほど、口の中が気になってしまい、自分の肌のコンディションを確かめるのと同じように歯茎の色、歯の色を鏡でじっくり観察するようになりました。口も肌も同じ顔なので、最近では他人の口の中が気になります。友達とはスキンケアの方法や使用している化粧水などの話で盛り上がるので、いつか口のケアの方法で盛り上がればいいなと思います。

普段、口の中や、どんな歯医者でどんなケアを受けているかなど、人と比べる機会がなかったので、自分の口腔ケアの参考になりました。さらにケアを続けていけば、死ぬまでおいしく食事できると確信を持つことができました。いい番組をありがとうございました。

10/27 放送の「仕事の流儀」を拝見させていただきました。

するめやリングをがぶり、とおいしそうに食べる 70 代、80 代の方の姿はとてもインパクトがありました。あの映像を見て浮かんできたのは、地元にいる両親や祖父母の顔でした。

私の家族は、あんなふうに好きなものを何でも食べられるのだろうか？ 歯は何本残っているのだろうか？ 10 年後、20 年後は？ 疑問はどんどん溢れてきます。

私は東京で働く会社員です。大学までは地方に住んでおり、就職のために上京して 4 年目になります。私自身は一昨年からは矯正治療を始めたことで、定期的にメンテナンスに通うようになりました。矯正を始める前に、準備として今の歯の状態や予防方法についてなど、色々と教えていただいたことがメンテナンスに通おうと思ったきっかけです。幼いころからむし歯になることが多かった私ですが、こんなに自分の口の中について知ったのは初めてでした。その時もやはり同じように、家族のことが思い浮かびました。

「歯ブラシの他にも、フロスとかフッ素とか使った方がいいんだって」

「自分では磨ききれない所があるから、定期的に歯科医院でクリーニングしてもらいたいよ」

電話で家族に伝えてみても、反応は芳しくありません。私の地元は、酒田市よりもっと小さな町です。歯科医院は徒歩圏内に 1 軒だけ、いつ行っても混んでいます。「だから定期的に通いたって言いづらいし、私(母親)も忙しいから……」と。

熊谷先生が変えた酒田市がとても羨ましいです。私の地元もあんなふうになればいいのに。熊谷先生の働く姿や、自慢の歯を覗かせて、にこやかにインタビューに答える市民の方々を見ながらそう思いました。

しかし同時に、地方でもこのようなシステムづくりができるのだということは希望でもありと感じます。いち歯科医院の活動だけでなく、町や市、県が協力して動けばもっと早く体制を整えることもできると思います。1 人でも多くの人がこの番組を観て何かを感じ、動き出すことができれば……。今度は酒田市だけでなく、日本中に変革が起きていくでしょう。私はまず、この番組を家族にも観てもらおうよう進めることから始めたいと思います。

10/27 放送 NHKプロフェッショナル 感想

一番感じたこと・・・それは、こんな先生が自宅のそばにいたら（あったら）いいのに・・・と、素直に思いました。

自分が子供のころ歯科医院へ行くのはやはり“むし歯の治療”の為のみでした。歯科医院は歯が痛くなってから行くところと、ずーっとそんな風に思っていました。最近、いろいろな予防商品等が販売されていますが、やはり素人の私たちにはどのように使ったらいいのか、コマーシャルや販売されているパッケージを頼りに使用しているのがほとんどだと思います。

歯科医院へ行くきっかけが、たとえ痛くなってからのむし歯治療だとしても、医院で予防のための知識を教えていただけたら、とてもラッキーと感ずるのではないのでしょうか？

また、予防の大切さを公共で行われている乳幼児対象の歯科検診や小中学校で行われている歯科検診などでも、実際に唾液検査でわかる歯の状態などを見せたりしていただくと、私たちの意識も予防へ向いていくのではないかと思います。

やはり、先生の言葉を言われるがまま耳で聞いて終わるのではなく、目で見えて焼きつかされると納得いくものがありますよね。

たくさん撮るレントゲンにしても、自分の口の中は見えないのでとてもいいきっかけになると思います。

先生の予防への思い・医院経営の苦難・引き継がれ受け継がれていく後輩への指導などとてもわかりやすくまとめられ、見ていてあっという間にもう終わり？と感じました。

もっともっと、熊谷先生のような熱い人が身近にいたら・・・とつくづく感じました。

以 上

NHK プロフェッショナル 仕事の流儀を見て

まずは、こちらの地域にお住まいの方達が非常に羨ましく思いました。

「こちらに通っている子供は成人になるまでに、虫歯ができる事はほとんど無い」と聞きびっくりです。

今だけを診るのではなく、患者さんの将来を診るという言葉に非常に感銘を受けました。診療所の設備も非常に素晴らしく、また、先生の予防に対しての信念、ブレない精神が大変良く伝わってきました。

この番組を見て、予防の重要性を痛感しました。

「痛くなってから行くのでは無く、痛くならないために行く。」

歯科医院に対する考え方が変わったように思います。

自分は、子供の頃から歯医者とは縁が切れず（虫歯治療の為）、恥ずかしながら今も治療が必要な歯があります。

熊谷先生のような歯科医がいる医院にお世話になって、歯の大切さ、予防の重要性を教わっていたらどれだけ自分の口腔内が違っていただろうと今更ながら悔やまれます。

ですが、今からでも遅くないと自分に言い聞かせ、自己メンテナンスしっかり行い、歯科医院でのメンテナンスを定期的に取り入れていくようにいたします。

プロフェッショナルの仕事を観させていただきました。

これからも良い番組を期待しています。

ありがとうございました。

プロフェッショナル 「ぶれない志、革命の歯科医療」 熊谷崇 を拝見して

はじめまして。東京で歯科業界に関わりのある企業で営業事務をしている者です。前回のプロフェッショナル 「ぶれない志、革命の歯科医療」 熊谷崇 を拝見して、歯科業界に携わっているものとして大変感銘を受けましたので、今回感想文をお送りさせていただきました。

私はまだこの業界に入って日が浅く、歯科業界についてもまだ勉強途中なのですが、放送を拝見して、歯科医院で歯周病予防を推進することの重要性、それを患者さんに伝えていくことの難しさについて、改めて認識することができました。

番組の中での熊谷先生の「プロフェッショナルとは、あえて困難な道を選択し、先入観とか既成概念にとらわれず、情熱を傾けて、そして創意工夫し、ぶれずに目的を達成しようと努力する人。」という言葉がとても印象的で、自分の信じたものを曲げずに貫き通す姿は、とてもかっこよく映りました。又、そうした強い意志を持っているからこそ、真に相手と向き合うことができ、仮に不測の事態が起きたり、周りに変化が訪れたりしたとしても、その事態や変化に逃げることなく、真正面から対応していくことができるのだということが伝わってきました。

又、たったの一時間程の間でしたが、全くお会いしたことのない熊谷先生の真面目で誠実な人柄が画面を通して大変身近に感じられたことで、番組のレベルの高さを感じました。

歯科界、ひいては世の中に予防文化を根付けることを目的として活動する企業の一つとして、又、そうした企業の一員として、熊谷先生、岡先生のような強い意志を持った歯科医師の取り組みを拝見することができ、大変励まされるような気持ちになりました。さらに、歯科関係の話を抜きにして、一人の人間としても、常に何か強い意志を持ち、関わる人一人一人に真正面から向き合い、その人の生涯を考えられるような人間になりたいと思いました。

前回の放送は、歯科医師のみでなく、歯科業界に携わる者、患者、一人の人間としても、大変見応えのあるものであったのではないかと思います。人生で、上手くいかないこと、周りの反対を受けることがあったときに、諦めずに、正面から問題に向き合っていくこと、現状に落ち着いてしまうことなく、本当に大切なことは何かについて突き詰め、それを実現していくことの大切さを学ばせて頂きました。

10/27 プロフェッショナル感想

いつも番組楽しく見ております。

医療のテレビ番組で歯科が取り上げられることはほとんどなく、
あったとしても「痛くない治療」など、すでに虫歯にしまってから話。
今回の予防に関して医師がこんなにも一人一人の口腔内を考えていることを多くの方に
知っていただくととてもわかりやすい番組でした。

私は、子供の頃から歯科治療が大嫌いでイヤな記憶しかありません。
それは痛くなってから通うのが当たり前の時代だったからです。

歯は食事以外にも、発音、ぐっと食いしばり力を出す時…日常生活に欠かせないもの。
電化製品や、自動車だってメンテナンスがあるのに、永久歯に生え変わってからの人生は
長く、どんな高い治療を施しても治った訳ではなく、治療の度に削られた歯は元に戻らな
い。20年前に私自身、歯科医院に勤めた時の先生の口癖でした。

福岡の先生がご苦労されていた通り、
現実には、自分自身で予防の意識が変わらないと継続できないものであって、患者からする
と自費であったり、予約をして通うというハードルもあり
医院からすると歯磨き指導一つとっても、きつい指導ではやる気が起きず、かといって褒
めすぎると怠けてしまう…。
資料の用意して説明時間をとっていてもキャンセルなどで時間が空けば、経営にかかわっ
てくる難しさがあります。どうやったら予防に通ってもらえるのかスタッフで話し合った
日々を思い出しました。

熊谷先生のブレない考え方は素晴らしく、継承していく若い先生方もたくさん全国にいら
っしゃることを知りました。
予防の意識が高まり、治療ではなく、予防にお金をかけることが当たり前の社会になるこ
とを願っています。

常に新しいことを探し続ける姿勢や、あえて困難な道を選択し、先入観・既成概念にとらわれないで行動し続けるということは、とても学ぶべき姿勢でありました。

現状をもっと変えたい、変わりたいと思う気持ちは常に持っていても、なかなか実際に行動を起こすことができない、起こすのが怖い、周りからどう思うかわからないなどで結局は何も変わらないまま日常を過ごしてしまいがちですが、自分自身のぶれない信念を持っていれば、それに向かって「今何をすべきなのか、そのために何が必要なのか」がハッキリすることが分かりました。

また、日吉歯科に来院される患者さんの「歯」だけを見ているのではなく、その人の今後の人生・未来など「人」として対応されていることで、提案していく内容やもっとこんなツールがあったら分かりやすいのではないかなど、その一人一人に合った様々な方法を考えることができていたのだなと思いました。

一患者としても、こんな先生に自分の大切な歯、人生までも任せていきたいなと思いました。

自分の仕事は何に繋がっているのか、よりよい未来をつくるために何ができるのか、何のために仕事をしているのかなど、改めて考え直すよい機会となりました。

プロフェッショナル仕事の流儀 熊谷崇先生放映回を拝見して

先日放映されたプロフェッショナル仕事の流儀の歯科医師 熊谷崇先生の放映を興味深く拝見しました。わたしが子供のころ歯医者には虫歯を治しに行く所という認識しかありませんでした。椅子に座って大きく口を開けて、何やらガリガリされながら、これから削られる自分の歯への惜しみもなく、ただ歯科医師にまかせたまま貴重な自分の歯が削られていくことに何の疑問もありませんでした。

なぜ虫歯になるのかということに関しては「甘いものを食べすぎたから」または「歯磨きを怠ったから」この2つしか教わりませんでした。

今回の放映にあったような唾液検査も知りませんでしたし、自分がなぜ虫歯になるのかを教えてくれる歯科医師もいませんでした。いま思えば、知識もなにもない患者に対して大した情報もくれず、ただ虫歯を見つけて削るという行為を繰り返す歯科医師に憤りを覚えます。

熊谷先生が、定期的にチェックに来ている患者に虫歯ができたことに対して謝ったシーンがありました。これもとても興味深いシーンでした。なぜなら今まで虫歯ができるのはすべて自分のせいだと突きつけられてきたからです。もちろん、自分もよく磨けなかったりして悪いことはありますが、健康な歯を保つために熊谷先生のように寄り添ってくれた歯科医師は誰一人いませんでした。ひとりひとりの患者に対して真剣に向き合う熊谷先生の志や姿勢には胸打たれるものがやはりありました。

今わたしは 40 歳ですが、これからも美味しいものを自分の歯で食べていつまでも若々しく生きていきたいと思います。わたしにはひとり娘がいます。いまは虫歯はありません。歯磨きをしたり、フロスをしたり毎日かかさずケアをしています。通院も熊谷先生のようなクリニックに通わせたいと思います。同じく娘も自分の健康な歯でいつまでも健やかに過ごしてほしいと願っています。

熊谷先生が目指したような歯科医院が全国に数多く増えることを望みますし、熊谷先生の志が日本に広がっていくことを強く望みます。

「プロフェッショナル」いつもいろいろな職種の素晴らしい考え、熱意を楽しみに拝見しています。

今回の熊谷先生の放送を拝見して率直に何故山形の地方にこんな素晴らしい医院があるのに自分の近くには無いのか？という残念なきもちになりました。

自分の口腔内は虫歯が多く小学生の時からいろいろな歯科医院に通って来ましたが、虫歯になるリスクがそれぞれ違うという事は全く知りませんでしたし、虫歯になったら削って銀歯を詰めるのが当たり前だと思っていました。

しかし放送をみて 20 歳まで虫歯 0 でいられる事、子供達が楽しそうにフロスをしている姿が今までの歯科医院と私の関係を 180 度変えるくらい衝撃でした。

そして今まで通っていた医院の先生方に「あなた方は私の将来まで考えて提案してくれていたのか？」と問い質したくなりました。

現在歯科医院にかよっていますが、テレビで放映されていたメンテナンスに長年通われている方々のようにいつまでも楽しく食事ができるような先生との関係ができる医院にこれからも通っていきたいと思います。

このような歯科医院が全国に沢山増え、自分のような治療で歯科医院嫌いになる人が少しでも減ることを切に願います。

NHK プロフェッショナル仕事の流儀を拝見して。

「予防」の考え方が患者さんや周りの人間からすさまじい反発や罵倒をうけ、想像を絶する苦難があったけれども、その人の事を心から考え行動をし続けてきた熊谷先生の姿に感銘を受けたと共に、日本歯科界の明るい未来を想像いたしました。

日本人は海外に比べ歯への意識が低いと言われてますし、実際に劣悪な口腔内環境の人が大勢おります。20代のおしゃれに気を使っているのに歯がガタガタな子たちを見るとがっかりすると共に日本での歯科への認識の低さに憤りさえ感じておりました。

歯科医院は痛くなったらいくところ、歯科医院サイドも治療をするだけ・・・

患者も歯科医療従事者も今までの固定概念にとらわれず新しい一歩を踏み出さなければいけないんだ。そういう時代がきているんだ。と今回の熊谷先生のお話から強く感じました

日本人が今よりも自分の歯に興味をもち、生涯自分の歯で食事ができる事の素晴らしさを感じ、酒田の人達のように予防が寄り添った人生を送っていけるように、自分自身も情報の発信・活動をこれまで以上にしていきたいと感じました。

熊谷先生の最後のメッセージで、「あえて困難な道を選択し、既成概念に捕らわれない、そして情熱を傾けられ、ぶれずに目的を達成できる人」

とても感動したと共に自分自身もそのような人間になりたいです。有難うございました。

歯医者さんは痛い歯を直してくれる人。だけと思ってましたが、熊谷先生のお話を聞いて、患者さんが自分の口腔内の状態を知るところから治療が始まるところに驚きました。

短期的に歯の治療だけを見るのではなく、その人の生涯に関わる長期的な視野で治療しつづける事が大事と気付かされました。

ありがとうございました。

歯科業者勤務 会社員 39歳 歯科業界歴 約半年

今回、熊谷先生を取り上げられたプロフェッショナルを拝見しました。

歯科医師として職業人として患者さんの立場に立った治療を続けていらっしゃる事が素晴らしいと思いました。一般の方にとって、歯科医院は歯が痛くなったら行く所だと思っているのではないのでしょうか？しかし「痛み」という感じやすい現象を治してもらっても、これまでの生活が何も変わっていなければ、結局また新しいむし歯になりトラブルを抱えることになります。こうしたサイクルを止めるために、なぜむし歯になるのか？どうしたらむし歯を防げるのか？口の中を気にしないと将来どうなるのか？などの情報をどのように伝えていくかのお手本だと感じました。

私は歯科業界で働くようになってまだ半年足らずです。歯科医のライセンスを持ち長く活躍されている熊谷先生とは立場も全く異なりますが、患者さんの視点と、むし歯や歯周病の知識を勉強しているものとして影響力を強く持てるよう考え実行していきたいと、今回のプロフェッショナルを拝見して、改めて感じました。

NHK プロフェッショナル仕事の流儀

関係者の皆さまへ

「ぶれない志、革命の歯科医療」を拝聴し筆を執りました。

ライセンスを持つものの責任―

多くの歯科医療従事者が今回の放送を通して改めてこの言葉の意味を考えたはずです。

私自身もそのうちの一人です。

熊谷先生がテレビに登場されると知り、たくさんの歯科医師・歯科衛生士がその日を心待ちにしていました。その理由の多くに熊谷先生は予防における最も有名で実績を持つドクターですから予防やメンテナンスに通うことの大切さを一般の人に“テレビを使って啓蒙してもらえる”と考えたからです。ご存知の通り、多くの歯科医院は自医院で患者を教育するノウハウも時間も持っていません。テレビで伝えてもらえるなら好都合なのです。

ですから今回の放送はある意味で期待を裏切られた想いでした。私たち歯科医療従事者に対してあまりにも強すぎるメッセージが込められていたからです。

私はメーカーに勤務していることもあり「テレビや CM で予防の大切さを啓蒙してもらえないか？」と言われることが多々あります。しかし本来予防とは一人ひとりの口腔への意識をどう変化させるかであり、そのためには患者自身のデータを元にご本人に考えさせ気づきを得てもらってこそ成功するもの。その予防の本質を今回の放送を通じて全国の歯科医療従事者が気づききっかけになるものだったと思います。

単に歯を磨きましょう、フロスをしましょう。そんな一方的な投げかけで患者が行動するはずがありません。しかしその程度で「私は伝えている」と勘違いしている人が多いのです。

「患者さんのため」という言葉を使う人はたくさんいますが、「患者さんの人生をみる」と言える歯科医療従事者がどれだけいるでしょう。きっと実際にそのための行動を起こしている人は数えるほどしかいないかもしれません。

熊谷先生の言葉は重く心に響きましたし、多くの歯科医療従事者に届いてほしいと私も願っています。

そして私たちの仕事は歯を治すことでもクリーニングをすることでもなく最後に登場した日吉歯科診療所に通う人々のような「笑顔あふれる人生をサポートすること」です。歯科医療従事者に最も足りない視点をご指摘いただき、また自分たちのライセンスを本来の形で活かすことがどれだけ価値あるかを再認識させていただきました。

なあなあだった歯科界がこれを機に大きく動くはずです。少なくとも私自身は今後もブレずに、逃げずに、自分の信念を貫いて取り組もうと意気込んでいます。

本当にありがとうございました。

NHK プロフェッショナル「ぶれない志・革命の歯科医療」

ご担当者様

先日 27 日に放送されたプロフェッショナルを拝見し、深い感銘を受けペンを執らせて頂きました。

私は臨床歴 10 年ほどの歯科衛生士です。

今まで歯科業界でこのような先生がいらっしゃる事を、全く知りませんでした。もっと早く知りたかった・・・と言うのが率直な感想です。

福岡の先生がなかなか上手くいかず、苦悩されていましたが、臨床にいた者としては見ていてとても胸が痛みました。医療者であるからこそ患者さんの主訴である『痛み』を取り除いてあげたいと思ってしまう気持ちも良く分かるのです。実際に私が以前勤務していた医院で「なぜ痛い所を先に治療しないんだ！」と怒り出す患者さんもいらっしゃいました。

しかし今日の放送を見て、目先の事ではなく患者さんの生涯に渡る健康を診てあげなければいけないのだと気づかされました。

きちんと患者さんと向き合って伝えていく事で、患者さんも理解し

てくれるのだと知りました。

変えていくのは容易ではないと思いますが、福岡の先生には頑張っ
てほしい気持ちでいっぱいです。

日本の歯科界が治療中心から、予防メンテナンス中心に変わってい
くのを願っています。私も従事者として色々考える良いきっかけを
作って下さった番組製作者の方々に感謝いたします。

ありがとうございました。

プロフェッショナルの感想

熊谷先生の哲学、患者利益、患者さんの人生をみていくことにとても感銘を受けました。

私は、口腔内に虫歯治療のあとが何か所もあり、それは子供時代につくられたものです。

虫歯になったら削って詰めるの繰り返しで、とても痛い思いをしたし、今となっては治療の箇所が恥ずかしくもあります。でも、これは当たり前だと思っていました。

番組のなかで、5才の頃からメンテナンスに通い、虫歯が1本もないという女性が出ていましたが、とてもうらやましかったです。子供のころに予防ができることを知っていれば、今こんなに歯で悩むこともなかったのにと悔やんでいますし、それを教えてくれなかった当時の歯科医師に憤りを感じます。

そんななか日吉診療所に通う子供たちの8割が、20歳になるまで、永久歯に1本も虫歯ができないことも挙げられていましたが、これは本当に素晴らしいことですよね。

その陰には、患者教育をしっかりしてきたご苦労があったのだと思いました。

仕事柄、熊谷先生のごことは、存じておりましたが、今回の番組を通して、ここまでの予防を確率するために、どれだけの心労があったのかがわかり、改めて熊谷先生への尊敬と偉大さを感じることができました。

患者さんと向き合い、目先の利益ではなく、患者さんの人生にとって考えたらどうなのかという視点が、大変すばしかったです。

番組のなかで個人的に一番よかったと感じた場面は、番組の最初と最後に出てくる、患者さんたちの声です。

「食べるのが楽しみ」「この年でこんなの食べれるなんてね」など、歯があることで、どんな人生を歩んでいるのか、人にフォーカスした内容になっていて、とても感激しました。

住職の方のお話でも、「歯を出して笑えるって、こんなに幸せなんですね」って、とても心に響きました。

熊谷先生に影響をされて、まわりの歯科医師、歯科衛生士さんたちが、「やる気が出た」

「モチベーションが上がった」という声がでていました。とてもうれしいです。

それだけではなく、患者のほうからも歯科医院を動かして予防に傾いていってくれると嬉しいです。

とてもとても素晴らしい番組でした。ありがとうございました。

「プロフェッショナル」の感想

一緒に暮らしている祖父と祖母は 90 歳と 83 歳になります。2 人とも薬は飲んでいないものの、体はとても健康で、自転車で畑に毎日行き、畑仕事を約 3 時間、収穫などで忙しい時だと 1 日中行なっている時もあります。ただ毎日母が夕食を作りますが、年々食べられる物が減っていつています。実は体は健康でも、歯はボロボロなのです。最近も入れ歯が合わなくて、硬い物が食べられないと言っており、私が食べている物と、祖父母が食べている物が、異なってくるようになりました。

先日の「プロフェッショナル」を拝見して、90 歳・80 歳の方々が硬いすめを食べたり、りんごを美味しそうに食べている様子を見て、自分の家族もこんな風に歯があって何でも食べれるようであれば、もっと食卓に揃うメニューも変わり、きっと外食することも増えたのではないかと感じました。きっとご覧になった一般の視聴者の方も“なぜ、あれほど歯が残っているのだろう？”と疑問に感じ、羨ましいと感じた人は多いのではないのでしょうか。

また放送中の熊谷先生の言葉で“情報が閉鎖的になっている“という言葉がとても印象的でした。どの歯科医院でも、患者さんに分かり易い言葉で説明をするように心がけている。丁寧に伝えています。という患者さんへの対応が多いが、結果的に継続的な来院に繋がっていなかったり、治療を毎回繰り返し行なう突貫工事のような患者さんを多くかかえています。

今回の放送で、何故適切な検査やデータを取っているのかを今一度、放送を見た歯科医師や歯科衛生士は考えるキッカケに繋がったと思います。情報というのは、患者さん自身が自分のことを知ってもらう大きな手段の一つで、ほとんどの歯科医院がそれを見落としにして、説明したつもり、理解してもらったつもりになっている事が多いです。本来の患者さんに情報を伝えるってことは、自分の歯が今何本あり、どんな状態なのか？自分はむし歯になりやすい状態なのか、それとも歯周病になりやすいのか？など、自分で自分の口腔内を説明出来るようになるくらいの所まで説明をする、患者さんに気づいてもらうということが大切なのだと思いました。

昔よりも、患者さんも予防の意識は高まってきてはいますが、提案する歯科医院側が変化しなければ、患者さんは何も知らずに歳をとっていくとともに歯を失っていくだけの人生になってしまうのかもしれないと思いました。放送を見た知り合いの歯科医師も患者さんの主訴にそのまま表面的に応えるのは患者さんの満足にすぐ繋がるので短絡的に見れば歯科医側としてもすごく楽なことかもしれないが、数年後にまたむし歯になりそれが日々の自己管理やメンテナンス不足だからと安易に考えてしまう状態を打破しなければ、いけないと罪な歯科医師にならないようにしなければと言っていました。

私自身も将来祖父母のように元気な老後を過ごしたいのと同時に、歯があり、何でも美味しく食べれる、孫と一緒にメニューの食事をしたいと思いました。

「10月27日・プロフェッショナル」を視聴しての感想

資格を持つものとしての責任ー

私は歯科衛生士ですが、この言葉を見て、少しザワッとしたのを覚えています。

「資格を持つものとして、しなければならないことがある」

この言葉の中に、いろいろな重みを感じました。

まず感じたのは、先生の仕事に対する熱意です。「一つの事を突き詰めるタイプ」と語られていましたが、カリエスであふれかえっている状況を見ても、安易な方を取るのではなく、ぶれずに困難な道を選ぶのが先生らしいと思いました。

映像の中で、唾液検査の導入を最初ためらっていたご夫婦が出ていらっしゃいましたが、熊谷先生が必要性を何度も伝えたところ、「いろんな先生に質問をぶつけてきたが、こんなに答えてくれた先生はいない」と話していたのが印象的でした。

このご夫婦のように感じている先生方や衛生士さんたちはまだたくさんいると思うので、唾液検査がなぜ必要なのか、患者さんや医院にどのようなメリットがあるのか、これからも伝えていきたいと感じました。

唾液検査の本当の重要性について、私は最近知りましたが、唾液検査を用いることで、患者さんに自分の口の中に関心を持ってもらい、その人自身の虫歯になる原因について考えてもらうことができます。ご自分の口の中を知ることにより、ご自宅でのケアの向上や口の中の状況改善も見込めるのです。

医科の健康診断のように、唾液検査も主流になったなら、日本人の口の中はきっと変わってくると思います。そういった未来を作れるように、私も微力ながら尽力していきたいと思います。

＜プロフェッショナルを拝見して＞

10月27日22:00。私は主人と一緒にプロフェッショナルを見ていました。

以前から山形県出身の主人に、山形にすごい歯科医がいるんだよ！と言っても全く反応を示さなかったのですが、テレビを食い入るように観入っておりました。

そして「この人はすごいね。」と一言。普段滅多に人を褒めない主人が褒めたので驚きました。番組が終わると早速フロスをしていたので、フロスの重要性がかなり心に響いたようです。

そして私は熊谷先生の「ブレない心」にととても感動し、途中何度も目頭が熱くなりました。

歯科医院で働いていると、むし歯を治療するのは当たり前。と思ってしまいます。

歯石もついていたら取りますし、磨けていなかったら歯磨き指導だってします。

どれも患者さんの為と思ってやってきましたが、日吉歯科の業務と比べたら、私のやっていたことはすべて自己満足であって、その場しのぎで患者さんの人生を考えた内容とはかけ離れていたことに気づかされました。

“患者教育”がいかに大切かにも気づかされ、そのためには医院側が情報を持っているだけではダメだということがよくわかりました。日吉歯科に通っている患者さんのたくさんのフロスを使っているときの映像がありましたね。

日本のフロスの普及率はまだ5%。私も一人の衛生士として、日吉歯科の患者さんのようにフロスが好き！って言って下さる方をもっともっと増やしたいです。これは自己満足ではなく、患者さんの将来を明るくするために。

そして番組をみていた人には、“歯科医院は痛くならないように行くところである”という熱いメッセージが伝わったと思います。

これをきっかけに、健康を維持するために歯科医院を訪れる患者さんが少しでも増えることを期待しております。

本当に感動いたしました。

ありがとうございました。

一番に、熊谷先生のお話を全国放送である NHK さんで放送していただき、本当にうれしいです。

歯科衛生士として勤務していますが、まだまだ日本の現状は“削って詰めて”の繰り返しです。

番組内でもあるように、削って詰めても最終的には歯を失ってしまいます。

そんな現状を当たり前と思う日本の歯科界、それを受け取る側の患者さんにとっては驚かれた内容だと感じています。

患者さんにとっては“自分の歯でずっと食事ができる”ことや、“虫歯や歯周病にならない”ことはメリットでしかありません。

そのことを岡先生のように、“患者さんの主訴を聞く“ことを私たち歯科医療従事者は患者利益だと考えていました。

しかし、本当に患者利益になることは何か、それはやはり患者さんの主訴を聞くことではなく患者さんが生涯健康でいられる、そのためにはしっかり噛める、おいしく食べられる、こういったことが必要だと考えます。

そのために最初は主訴は受け入れてもらえないからと嫌がる方もいるのかもしれませんが、私たち歯科医療従事者がしっかりした信念を持って患者さんの予防に取り組んでいくことが重要と考えました。

今回の放送を見てくださった患者さん方はきっと“予防ができるのだ”ということを感じさせられたのではないかと思います。

刺激を受けた患者さん方が、今通われている歯科医院、今後通う歯科医院にそういったことを求めていってくれると日本の歯科界はよりよくなるな、と嬉しく思いました。

プロフェッショナルが始まり、酒田市のご年配の方が” 歯を食いしばりスポーツをされる”、” 美味しい食事をされている” それがすべてを物語っていると感じました。

どういう事かと申しますと、熊谷先生が長年積み重ねてきた予防という概念と幾度となく積み重なる試練に立ち向かった結果という事です。

” すぐに治療をし、一時の安心感を求めるのか” それとも” 一生涯の幸福感を得るのか” どちらが患者のためなのか、どちらが医療人としてやるべきこと、やらなくてはいけないことなのか。画面を通してですが、その思いがとても心に響きました。

NHK プロフェッショナル～仕事の流儀をみて

ぶれない志、革命の歯科医療・・・・

同業者として背筋を正して最後まで見入ってしまいました。

「単純に患者が集まる歯科医院」として紹介されるのではなく、「プロフェッショナルとしてどうあるべきか」「本来の歯科医療の役割とは何なのか」がすごく、心にズシッと伝わってくる内容でとても感激しました。

明確な医療観のもと、きちんと信念をもってプロフェッショナルとして仕事をする…
免許を持ったプロフェッショナルとして、何を考えなければならないのか・どうあるべきなのか・・・・自分の方向性が見えたようにも思います。

これは最も大切なことであって、私が同業者として常日頃、大切にしていることでもあります。ですが現実にはなかなかそれを許してくれません。そして、私は現場を離れました。同じ志をもって患者さんと接する、これを実現できる歯科医師を見つけることができなかったからです。

多くの歯科医療従事者と話すとき疑問に思うことがあります。それは…プロフェッショナルとして責任をもたず、正しい知識を持ち得ていない歯科医療従事者がまだまだいるということ。そしてその人たちはなぜそのような状況に甘んじているのかということです。

それが番組を拝見して理解できました。

「プロフェッショナルとしての責任」をどうとらえているのか。ここに違いがあるのではないか。

この番組が、どのくらいの患者さんにみていただけたのか・・・・

歯科医療従事者のほうが多く見ているようにも思いますが、患者さんにも“本当の歯科医療は何を提供してくれる場所なのか”をご理解いただける内容だったのではないかと思います。そして、自分の歯でおいしいものを食べるには“歯”が必要不可欠であること。きちんとメインテナンスに通えば、「歯は守られるもの」だと感じてもらえたのではないかと期待しています。

このような形で歯科医療が取り上げられることはあまり多くありません。

本来の歯科医療の在り方をきちんと取り上げてくださったことに、心から感謝するとともに、このような情報をもっと多く発信されたらと願います。

撮影など本当に大変だったのではと想像する番組でしたが、いろんなことを考えさせられる時間になりました。

先日、23 日の”仕事の流儀、プロフェッショナル“は多くの示唆にとんだ番組で、質の高いテーマであった。

何故、多くの歯科医師の中で熊谷先生だけが 35 年前から“患者さん”の快適な人生を提供する医療を目指すという視点を持ちえたのか？一方では、なぜ他の歯科医師たちの同じような口腔内の患者さんたちを診ていながらも彼らの視点は“ヒト”でなく“歯”に固定されていたのか？

一視聴者として、これらの疑問はどうしても残る。どちらを理解すると分かりやすいのか？熊谷先生の脳の仕組みか？それとも“ヒト”よりも“歯”を見てしまう多勢の歯科医師達の脳を理解すべきなのか？それは、目的志向型の価値システムを持っていた熊谷先生の脳なのか？それとも、習慣型志向の価値システムを制度によりインストールされてしまった他の歯科医師達なのか？

岡先生の唾液検査を継続できなかった迷いや揺らぎは本人の意思の問題か？それとも制度により洗脳されてしまった彼の習慣脳の問題なのか？

熊谷先生には人間としてだけでなく歯科医師として自由意思や信念に基づく高い医療観を持っているが、他の歯科医師達には自由意思はあるが信念に基づく理念や医療観が低いのか？

つくづく答えのない疑問が後から後からわいてくる番組であった。これからの歯科大学の教育のあり方や制度のあり方がどのように学生達や臨床現場にいる歯科医師達の思考、行動、価値観に影響を与えているのかを探ってみる必要があるようだ。

60 数年前に制定された GHQ 主導型の皆保険は耐用年数を超えて既に崩壊しているにも関わらず、後生大事に維持しようとしている歯科医師会の動きを見ると誰の為の医療なのか？この疑問にぶつかる。

今後、熊谷先生のような歯科医師がどの位の速度で、どのような教育で育成されていくのか？どのくらいの時間とコストがかかるのか？一視聴者として、関心をもたざるを得ない。

何れにしても、久しぶりに色々と考えさせられた番組であった。あの番組をどのくらいの歯科医師達が見て、何を感じたのかを調査することができたら次の”仕事の流儀、プロフェッショナル“以外の番組にもいかせてもらいたい。

治療から予防へ、予防から健康産業へ、更には最適健康産業へと移行しようとする北欧やアメリカから日本を見ていると、日本の歯科界はいまだに生活者の慎の欲求から遠く離れたところに留まっているように感じてしまう。

、